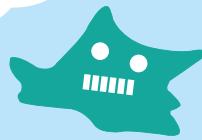


このページは、小・中学生向け
梅光学院大学子ども学部子ども
未来学科(地域共生ゼミ)の学生が
作っています。

※イラスト まつやまほくと
松山北斗さん



しものせき キッズページ



Shimobin(しもびん)

ShiMoBiに行ってみよう!!

ShiMoBi... 下関市立美術館



3月号の編集記者(左から)森本まゆさん、
米貴愛さん、曲名龍ノ介さん

洋画にせまる

(西洋絵画編)

洋画は、板やキャンバスに油絵具で描かれた絵のこと。西洋で生まれた絵画技法なので、日本の伝統的な絵画「日本画」に対して「洋画」と呼ばれているよ。現在、下関市立美術館では、特別展「動き出す! 絵画 北山の夢 モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち」を3月12日まで開催しているよ。大正時代に雑誌の発行、展覧会の運営を行った、ヘルル北山(北山清太郎)の仕事に、西洋絵画とそれに影響を受けた、明治〜大正時代の日本の洋画を同時に展示しているよ。今回は、約100年前の日本の洋画家たちが憧れた西洋絵画はどのようなものだったのか、見てきたよ。

2点の作品を 紹介します!

①クロード・モネ《サルーテ運河》
②ポール・シニャック《ヴェニス・サルーテ教会》(1908年、宮崎県立美術館蔵)



光に包まれた風景

青やピンクのとても明るい色を使って、筆跡を残しながら描いているよ。場所はイタリアのサルーテ聖堂あたりの運河だよ。光に照らされた建物や水面が鮮やかに見える一瞬を描きとっているんだ。

印象派ってなに?

モネは、「印象派」を代表する画家のひとりなんだ。「印象派」は、19世紀後半から20世紀のはじめに、外光の中で、その時々で移り変わる景色を目に見えのままに描いた画家たちのことだよ。

点描で描かれているよ

赤や青、黄色など原色を多く使って、画面全体を点描で埋めつくしているんだ。近くで見ると、絵具の点々の集まりばかりに目がいくけど、遠くから見ると、その点々の色が混ざり合って、とても鮮やかな教会の建物と水辺の風景が現れるんだ。



②ポール・シニャック《ヴェニス・サルーテ教会》(1908年、宮崎県立美術館蔵)

どうして鮮やかなの?

絵具の色は、混ぜるほど濁るんだ。シニャックは、色を混ぜずに塗って、人の目の中で色同士が作用し輝いて見えることに注目したんだよ。例えば、赤と緑が隣合うとチカチカと明るく見えるよ。

北山清太郎って どんなひと?



1888年和歌山県生まれ。大正時代の美術界に大きく貢献したんだよ。

①美術雑誌を編集&ヨーロッパ美術を紹介

美術雑誌「現代の洋画」や「現代の美術」を発行して、日本に印象派などのヨーロッパの美術を紹介したんだよ。

②展覧会をお手伝い

岸田劉生や木村荘八ら若い洋画家たちの展覧会を開いたり、そのカATALOG制作も手掛けたよ。印象派の画家たちやゴッホらを支援したパリの画材商・ペール・タンギー・タンギー親戚にちなんで、「ペール北山」と呼ばれたんだよ。

③アニメーションを制作

当時の最新文化・アニメーションにも注目して、日本で最初にアニメーションを制作したひとりなんだよ。
日本初のアニメーションスタジオも設立したんだよ。



次回のは、こうした西洋美術から影響を受けた日本の洋画を紹介するよ。